

佳作

小さな変化が強いチーム北中に

湯沢市立湯沢北中学校

二年 遠藤 えんどう 晴海 はるみ

「おはようございます。」

朝のあいさつ運動の音が響き合う東小・北中のホール。挨拶をするのは、誰にでもできる簡単なことです。しかし、その挨拶は相手の心に届いているのでしょうか。三学期の始業式、校長先生からこんなお話がありました。

「北中の皆さんの挨拶は、すばらしい。しかし、最近、地域の方々から挨拶に元気がないという意見があがっています。三学期は、沢山の人に挨拶をして、あいさつ貯金をしていきましょう。」

校長先生のお話を聞いた私は、「やっぱり」と思いました。これまで北中生は、あいさつ運動に力を入れて頑張ってきましたが、なんだか物足りない気がしていたからです。ただ挨拶するだけでは、相手に気持ち

を伝えることはできません。また、下を向いて挨拶するなど相手の目を見ない挨拶では、地域の人に認められるはずはありません。相手が明るくなる、気持ちの良い挨拶とは一体どのようなものなのでしょうか。

湯沢北中学校は、湯沢東小学校と小・中一体型校舎となつて、二年目となります。私は、生徒会総務の一員として、朝のあいさつ運動に取り組んできました。そこで、気がついたことが一つあります。

それは、小学生と中学生では、挨拶の仕方に違いがあるということです。中学生は会釈をしたり、立ち止まって挨拶をしたりと細かいところに気を配っているのに対して、小学生は、誰に対しても同じように、明るく元気な挨拶をしています。それぞれの年齢に応じた挨拶の仕方をしていきたいと思います。私は互いに不足している部分があると思います。例えば、中学生だったら、もっと明るく元気な声で挨拶をすること、小学生だったら、目上の人に対して会釈をしたりすることです。互いの挨拶の良さを理解し、一緒になつてあ

いさつをすることで、湯沢北中学校と東小学校の両方が明るくなくなると思います。小・中一体型校舎というメリットを生かし、これからもあいさつ運動を続けていきたいと思っています。

しかし、それだけではいけません。校内では知っている人に挨拶をするのだから、恥ずかしがらずに挨拶できると思いますが、地域の人たちの中には、知らない人も沢山います。友達や先輩、先生、地域の人など、誰に対しても、気持ちの良い挨拶をするためには、どうしたらよいのでしょうか。

まずは、誰に対しても挨拶をしてみるという「気持ち」が大切だと思います。友達や先輩、先生だけでなく、地域の人に対しても、恥ずかしがらず、積極的に声を出してみることが大事だと思います。明るく元気に挨拶をすることで、挨拶をした自分も気持ち良くなると思うし、挨拶をされた人たちも気持ち良くなると思います。その挨拶の輪が広がっていくことで、湯沢北中学校に貢献しているという気持ちを実感する

ことができると思います。

挨拶とは「もつと大きな声で！」と相手から注意されるものではないと思います。お互いの心を開き、相手の目を見て、明るく、元気に言葉を交わすことが大切です。たとえ、相手が挨拶を返してくれなくても、自分から挨拶をし続けることで、いつかは相手も返してくれると思います。返してくれないからやらないではなく、挨拶をすることで相手も自分も何か得られるものがあると思います。

今、私たちは気持ちの良い挨拶をすることができたら、毎日「あいさつ貯金」をすることにしています。「あいさつ貯金」は目には見えませんが、私たちの心の中に少しずつ貯まってきています。その小さな変化を重ねていくことで、北中や地域全体を明るく元気にしていきたいと思えます。北中や地域全体をより良くしていくために、自分から率先してあいさつをし、強いチーム北中をつくっていききたいです。